

いちほまれ

いちほまれ選抜No.2

【茎数確保後の管理】

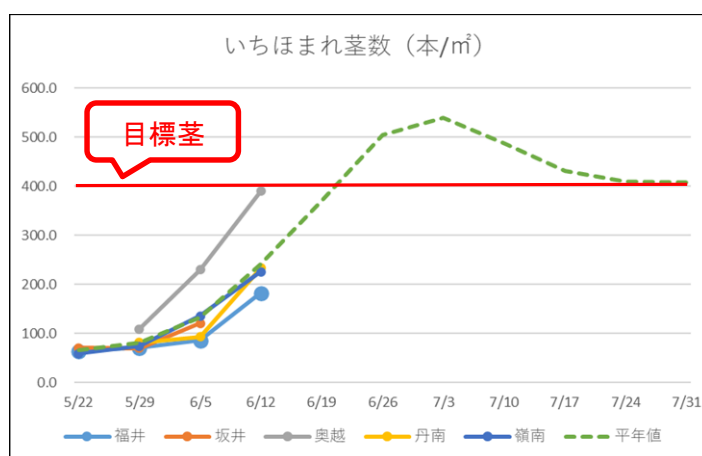
JA福井県

●茎数確保後は適期中干しを！！

5月は好天が続いたことから、稲の生育は概ね良好です。しかし、一部では植え傷みによる分けつ遅れが見られました。分けつが少ない圃場では、浅水管理により分けつを促進させ、丈夫な株を作りましょう。また、梅雨時期を迎えますので、気象の推移に注意しつつ栽培管理をしましょう。

1. 生育調査結果

- ・先週の調査まで、気温は平年に比べ低く茎数は平年並みかやや少なく、草丈は平年並みに生育し、葉色はやや淡い状況となりましたが、今週に入り夏日のような好天が続き気温も平年に比べ高くなり、葉色も出てきて茎数も増加してきました。
- ・JA管内の調査では、植付時の本数にもよりますが、㎡あたりの茎数は約230本となっています。



2. 今後の栽培のポイント

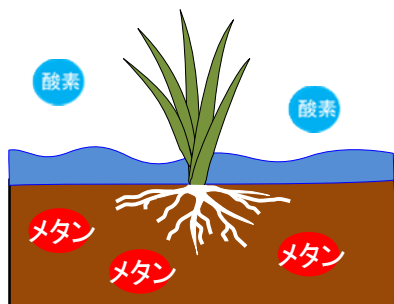
■目標茎数を確保したら速やかに中干しを！

6月中下旬に目標茎数400本/㎡(60株植えの場合、1株あたりの茎数が22本、50株植えの場合、1株あたりの茎数26本の8割に達したら中干を開始しましょう。

また、葉色が淡く分けつが少ない圃場ではワキ(ガス)の発生を確認して、発生している場合は軽い田干しを行ってください。



田干し前



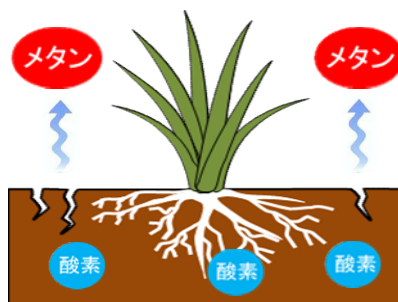
- ・土中に発生したメタンガスの影響で根腐れが発生。
- ・下葉が枯れあがる。

中干しをすると…

- ・土中に発生したメタンガスは空气中に排出される。
- ・土中に酸素が取り込まれ

稲の状態

田干し後



- ・土中に新鮮な酸素が取り込まれ、根張りが良くなる。
- ・肥料分を十分に吸収できるようになり葉色も出てくる。